

第403回東京大学図書行政商議会議事要旨

日 時 平成23年11月22日（火） 10:00～12:00

場 所 総合図書館3階 大会議室

出席者 <委員長>古田元夫 <委員>久保文明、岩坪 威（代）、藤井恵介（代）、吉澤誠一郎（代）、寺島一郎、本間正義、伊藤正直、鍛冶哲郎、根本 彰、村田茂穂、平地健吾、月橋文孝、蓮尾一郎（代）、橋元良明、山梨裕司、池本幸生、中村圭介、畑中研一、保谷 徹、須谷尚志（代）、川崎雅裕、金道浩一、安田一郎

※(代)は代理出席者

<オブザーバー>河野重行、中川裕志（代）、堀 浩一、小林真理

欠席者 栗田 敬、玉井克哉

列席者 田中成直、木村 優、高橋 努、北村照夫、風巻利夫、茂出木理子、増田晃一、福井明美、吉田左貴子、高嶋秀介、大澤正男、合田美恵子、藤本蒂子、野口真理子、濱田すみ子、本多 玄、森田美由紀、久保田壮活、石川一樹、佐藤英之、細谷孝子、金藤伴成

配付資料

1. 第402回図書行政商議会議事要旨
2. 東京大学附属図書館長選考規則
3. 東京大学附属図書館基本規則等の一部を改正する規則（案）
- 4-1 全学共通経費から部局経費へ移行した冊子（電子ジャーナルあり）で全学で冊子が1部もなくなる雑誌の取扱いについて（経過報告）
- 4-2 全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備の基本方針（案）
- 4-3 全学共通経費で整備するデータベースの見直し方法について（案）
- 4-4 平成24年度大型コレクションの募集について（案）
- 4-5 （参考資料）全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備の基本方針等
5. 附属図書館サービス特別委員会議事次第
6. 新図書館構想推進体制
7. 東京大学新図書館構想に関する意見募集について
8. 国立国会図書館「博士論文の著作権処理作業の結果について（報告）」
9. 「学術情報の利用に関する調査2011」について

<参考資料>

平成23年度附属図書館特別展示 総合図書館貴重書展「江戸 いきもの彩々」
平成22年度附属図書館活動報告書

<開 会>

- ・古田委員長の主宰のもとに開会した。
- ・古田委員長から代理出席者の紹介があった。

<議 事>

1. 前回議事要旨の確定

古田委員長から、第402回議事要旨を資料1のとおり確定し、ホームページで公開した旨報告があった。

2. 協議事項

(1) 附属図書館長候補者推薦委員会委員候補の選出について

附属図書館長候補者推薦委員会委員候補の選挙が行われ、以下のとおり選出された。

選出結果	委員候補 3 名	久保文明教授	大学院法学政治学研究科
		大江和彦教授	大学院医学系研究科
		根本 彰教授	大学院教育学研究科

上記委員候補が出席不可能な場合の委員候補（2 名）

次点	伊藤正直教授	大学院経済学研究科
次々点	高田毅士教授	大学院工学系研究科

(2) 附属図書館副館長の設置について

古田委員長から、副館長設置についての主旨説明があり、設置するにあたっての規則改正については木村総務課長から資料 3 に基づき説明があった。委員から、副館長の人数明記や委員長に事故のある時の代理の順位等について質問があり、古田委員長から副館長の人数は 1 名を考えており、代理の順位についてはまず副館長にお願いする旨の発言があったのち、副館長設置が承認され、所要の手続きを進めること、また規則改正の字句訂正等は館長に一任するということで了承された。

(3) 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備について

畑中サービス特別委員会委員長から、資料 4-1 にもとづき「全学共通経費から部局経費へ移行した冊子（電子ジャーナルあり）で全学で冊子が 1 部もなくなる雑誌の取扱い」に関するサービス特別委員会での審議等経過の報告があり、引き続き高橋情報管理課長から詳細について説明があった。

部局調査の結果、全学で冊子が 1 部もなくなるものは 679 タイトルであり、この中から本学にとって維持が必要なものを各部局から 1 部局 3 タイトル以内で推薦してもらい、各部局推薦 2 タイトルまでを全学共通経費による購読タイトルとして選定した。配架場所については受入後 2 年間に限り推薦部局の図書館・室に置くことも可とした。電子ジャーナルの契約中止後のアクセス権の状況については、大部分が中止した後も購読していた期間についてはアクセス権があり、その他契約中止後アクセス権を認めない出版社には、今回は東大から冊子が 1 部も無くなる雑誌の該当がないため問題はないこと、さらに東京大学が参加している CLOCKSS(どこからも提供されなくなった場合の代替提供サービス)により保存されたデータへのアクセスは保障される旨の補足説明があった。

今回の調査で、全学共通経費を冊子ではなく新規雑誌に充てる方がよいとする部局が半数近くあったことから、雑誌の見直し・入替を予定している平成 25 年度契約に向けて、予算の許す範囲内で新規雑誌の購入も検討することとした。また、今後新たに全学で冊子が 1 部もなくなるものが生じた場合、平成 26 年度以降については予算状況を見た上で判断をするとの説明があった。これについて、委員からは、新規ジャーナルを購入するさいの道筋について、部局独自の購読は可能か、新規ジャーナル購入と冊子体購入の予算配分はどうなるのかの質問があり、畑中サービス特別委員会委員長から新規ジャーナルを購入したい時は現在購入しているジャーナルを中止することが前提であること、部局経費での独自購入は可能であること、予算配分については今後の状況を見ながらサービス特別委員会で検討したいとの発言があり、資料 4-1 について了承された。

次に高橋情報管理課長から、資料 4-2 「全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備の基本方針（案）」について、平成 24 年度は原則平成 23 年 3 月 31 日時点で購入していたものを継続し、電子ジャーナルの利用できる学術雑誌（冊子）は対象外としたこと、データベースについても同様に平成 25 年度に向けて見直しを行い、いずれも原則として第 2 期の期間中は固定とすること、大型コレクション

ンの整備については第1期の基本方針を踏襲すること、契約形態の異なる「パッケージ契約により購入される電子ジャーナル」、「個別契約により購入される学術雑誌（冊子）及び電子ジャーナル」、「データベース」の三者は原則区別し、継続、中止等はそれぞれの予算枠内での調整を行うこと、の説明があった。以上の説明に対し委員から、大型コレクションの年間維持費が部局負担となっており全学共通経費から手当できないか検討して欲しいこと、電子ジャーナル利用可能な冊子体を部局負担にして節約した経費の使途についての質問があった。古田委員長から、大型コレクションの年間維持費についてはサービス特別委員会に検討していただく、また、節約分は積立てておき4年間で予想される値上げ分の支払にあてる予定であるが、執行に関する情報を提供するように工夫したい旨の発言があり、資料4-2について了承された。

高橋情報管理課長から、資料4-3「全学共通経費で整備するデータベースの見直し方法について（案）」及び資料4-4「平成24年度大型コレクションの募集について（案）」の説明があり、両案ともに部局調査をスケジュール通り進めることで了承された。

高橋情報管理課長から、大学図書館コンソーシアム連合とシュプリンガー社間で特別包括提案が同意され、本学が同提案に参加することで、今後3年間はシュプリンガー社の電子ジャーナル契約金額の上昇を抑えることに加え、創刊号から1999年の範囲でバックファイルにアクセスが出来ることとなったことの説明があった。また、提案に合意する大学（東京大学を含む）に加え国立情報学研究所、外国雑誌センター館（本学農学生命科学図書館を含む）が経費分担をする仕組みとなっており、古田委員長から農学生命科学図書館に対して協力への謝意が表明された。次に全学共通経費の平成23年度執行について、昨年並みの金額の中に収まる見込みであるとの報告があった。

3. 報告事項

（1）附属図書館サービス特別委員会報告

古田委員長から、協議事項で説明のため割愛させていただくとの発言があった。

（2）新図書館構想の推進について

古田委員長から、資料6に基づき推進体制の変更について、資料7に基づき新図書館構想に関する意見募集についてそれぞれ報告があった。

（3）平成23年度附属図書館特別展示の開催について

北村情報サービス課長から、参考資料の特別展示資料目録に基づき報告があった。

（4）国立国会図書館「学位（博士）論文のデジタル化に係る許諾」について

木村総務課長から、資料8に基づき共通許諾作業の結果について報告があった。

（5）「学術情報の利用に関する調査2011」（SCREAL）の実施について

木村総務課長から、資料9に基づき調査内容の説明があり協力要請があった。

（6）その他

古田委員長から次回の図書行政商議会は3月16日を予定しているとの発言があった。

〈閉 会〉